

紙の上の建築

Architecture on Paper : Architectural Drawings of Japan 1970s – 1990s

日本の建築ドローイング 1970s—1990s



①EARTHTECTURE SUB-1 / 高松伸建築設計事務所蔵

出展建築家

渡邊洋治

磯崎新

藤井博巳

原広司

相田武文

象設計集団

安藤忠雄

毛綱毅曠

鈴木了二

山本理顕

高松伸

1970年代から90年代に自らの建築への想像力を紙の上に託した11の建築家たちによる建築ドローイングを紹介します。

展覧会概要

建築におけるドローイングとは、一般的には「図面」のことです。その中にはスタディのためのスケッチから設計図、施工図、プレゼンテーションのために美しく着彩され陰影を施されたレンダリングなどが含まれます。しかし、ときに建築家たちは、このような設計—施工のプロセスからは相対的に自立した世界を紙の上に追求しました。

日本では特に大阪万博以後 1970年代から 1980年代にかけて、建築ドローイングの表現は大きな飛躍をみせます。ポスト戦後という時代に、建築家たちは実務上の要求を超えて、多くのエネルギーをドローイングに注いでいきます。画面は大きくなり、技法は多様化し、ひとつの独立した作品として鑑賞されるものとなります。建築家たちは何故それを描いたのか。彼らが紙の上に求めたものは何だったのか。ひとつの建物が竣工するということだけでは必ずしも完成しない、建築家のヴィジョンがそこには示されています。

1990年代に CAD (computer-aided design) が普及してからは、設計図面が手で描かれることもなくなり、ドローイングによる表現は衰退していきます。ポスト戦後の建築家たちが描いたドローイングは、時代の中でどのような意義を持っていたのか、今それらは私たちに何を問いかけるのか。そのことを考えるために本展示は生まれました。